

近代日本における障害児保育問題の生成と展開を  
その実態に照して解明した初の研究書

二〇二二刊

# 総力戦体制と

## 障害児保育論の形成

日本障害児保育史研究序説

河合隆平 著

（金沢大学准教授）

● A5判・上製 三三六頁

● 定価＝本体七、〇〇〇円＋税

ISBN978-89774-542-8 C3037 ¥7000E

本書は戦前の保育問題研究会と恩賜財団愛育会をフィードとして、一九三〇～四〇年代にかけて困難児保育・障害児保育という新しい問題が発見され、それらが保育・母子保健の一領域として確立してくるプロセスとその意味を明らかにすることを目的とし、今日の障害児保育問題を理解するための基礎的研究となるものである。第一部（第一章・第二章）では、戦前期から総力戦体制への移行期に焦点を当て、児童保護や幼児保育・教育の領域において困難児保育・障害幼児問題が取り組むべき課題として認識されてくる契機を明らかにした。第二部（第三章・第四章）では、一九二〇～四〇年代の困難児保育・障害幼児問題の位相に対して、「保育問題研究」や「国民保育」という枠組みの中で、いかに実践・研究を展開し、理論構築を図ったのかを明らかにした。第三部（第五章（第七章）では、愛育研究所「特別保育室」を中心に、総力戦体制期に誕生した障害児保育のありよう、及びそれが子ども・家族、保姆にとっていかなる意味をもたらしたのかを明らかにした。第八章・補論では、戦前から戦後への展開をふまえて、戦後初期から一九七〇年代前半までの障害児保育問題の見取り図の提示を試みた。

### 内容「抜粋」

#### 序 章 研究の課題と方法

第一節 一九三〇～四〇年代の保育困難児・障害幼児問題への着目

第一部 戦前期から総力戦体制期への移行と保育困難児・障害幼児問題の動向

第一章 戦前期における保育困難児問題と民間保育運動の成立

第一節 保育事業成立期の保育要求と保育困難児問題

第二節 幼保一元化構想の展開

第三節 東京帝国大学セツルメント託児部と保育困難児問題

第四節 児童問題研究会と科学的保育研究の萌芽

第二章 児童政策の拡充と保育困難児問題の認識

第一節 母性保護問題と都市中間層の育児問題

第三節 大阪市の児童保護問題と児童相談事業の展開

第四節 国民幼稚園構想における保育困難児問題

第五節 乳児死亡問題と保育困難児問題

第二部 保育問題研究会の保育困難児研究と国民保育論

第三章 保育問題研究会における保育困難児研究の展開

第一節 保育問題研究会の結成

第四節 第三部会と保育困難児研究

第四章 国民保育論における保育困難児・障害幼児問題の位置

——城戸幡太郎と三木安正を中心に——

第一節 城戸の心理学研究と発達論の形成

第四節 国民保育制度の創出

第五節 三木安正の知的障害心理学と幼児保育論

第六節 障害児保育の目的と特殊幼稚園

第七節 国民保育論への困難児保育の統合

第三部 恩賜財団愛育会における愛育事業の展開と障害児保育実践の誕生

第五章 恩賜財団愛育会の愛育事業と困難児問題

第六章 愛育研究所「特別保育室」と障害児保育実践の課題

第二節 特別保育室における保育実践の展開

第七章 小溝キツと「異常児保育」——保育記録にみる障害児保育実践の誕生

第二節 保育実践の倫理と規範

第三節 「異常児」をめぐる育児の心性

第八章 「補論」戦後の障害乳幼児問題と障害児保育の課題

終 章 本研究の総括と今後の課題

### 緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1

☎03(3579)5444

振替 00140-8-56567

〔消費税が別途加算されます〕